

あとがき

2020年1月上旬、新型コロナウイルス感染症が国内で初めて確認されて以来、3年が経過しようとしています。この編集後記を書いている11月下旬現在、2,440万人以上の人々が感染し、5万人近い人が命を落としてしまいました。人類の歴史は感染症との戦いの歴史であるといわれます。中世ヨーロッパでのペストの流行は5,000万人に及ぶ死者を出し史上最悪の感染症として語り継がれていますが、今回の新型コロナウイルス感染症でも既に660万人以上の死者が報告されています。医療の発達した現代においてこれ程の死者が出るとは、誰も予想しなかったことでしょう。かがわ総合リハビリテーションセンターも新型コロナウイルス感染症の影響をもろに受けて、感染対策の徹底、入院や利用の制限、クラスター発生などここ3年間は目まぐるしく時が過ぎたように思います。

かがわ総合リハビリテーション雑誌は2019年に第5巻が発刊され、本来ですと昨年(2021年)に第6巻を発刊予定でしたが、新型コロナウイルス感染症のため研究発表会が1年延期されたため第6巻の発刊が2022年にずれてしまいました。第6巻の発刊に向けて2022年7月から編集員会を立ち上げ、診療部、リハビリテーション部、看護部、地域生活支援部から優秀な発表演題を選出し論文に仕上げてくださいました。診療部においては、2022年3月から新たに勤務している脳神経外科の丸尾先生と、同年4月から勤務している放射線部の小川さんにMRIについての原著を執筆して頂きました。少々難解な内容ですが、MRI検査の基本とMRIでは脳の形だけではなく機能まで調べることができることが書かれています。リハビリテーション部からはコロナ禍における退院支援といった時代に即した論文、看護部からは当院における看護師の役割に関する論文、地域生活支援部からは地域における生活支援や発達障害者の支援など盛りだくさんの内容になっています。新型コロナウイルス感染症の対応をしながら研究活動を進めてきた皆様のご苦勞の結晶として素晴らしい内容ばかりです。2022年の年末までには皆様のお手元に届いていることと思います。年末年始のお休みの間にゆっくりとこの雑誌を読んで、新たな活力にしていいただければ幸いです。

皆様の今後のご多幸とご活躍、更には新型コロナウイルス感染症の早期の終息を祈念して編集後記とさせていただきます。

令和4年12月吉日

かがわ総合リハビリテーションセンター雑誌編集委員長 河井 信行

編集委員

委員長 河井 信行

委員 藤井 光代、小島 正平、山下 由美子、森川 茂、山本 巧